



Partial translation of Japanese Patent Office Action issued on July 31, 2007  
in Japanese Patent Application No. 2003-353928

- Claims 1-5
- Cited References etc. 1-3
- Remarks

Cited reference 1 states that patent documents highly similar to the said patent document are retrieved by extracting a word, a priority date, an application date, or the like from the said patent document and that a chart is compiled by connecting documents which are included among the patent documents considered to be highly similar to the said patent document and between which reference relationship exists by a line segment (see paragraphs [0004], [0046], [0047], and Fig. 11).

If the invention stated in cited reference 1 is compared with the invention according to claim 1,

a "patent document" stated in cited reference 1 corresponds to an "object" stated in the invention according to claim 1,

a "priority date" stated in cited reference 1 corresponds to a "feature element including time information" stated in the invention according to claim 1, and

a "chart" stated in cited reference 1 corresponds to a "relation chart" stated in the invention according to claim 1.

With the invention according to claim 1, an association line is generated "depending on a degree of relevancy". With the invention stated in cited reference 1, documents between which reference relationship exists are connected by a line segment. The invention according to claim 1 differs from the invention stated in cited reference 1 in this respect (difference 1). Furthermore, with the invention according to claim 1, an object is laid out along a "time axis". This is not stated in cited reference 1 (difference 2).

The above differences 1 and 2 will be discussed.

#### Difference 1

Cited reference 2 states that a technical map is drawn by connecting nearly related nodes by a line (see Fig. 6).

In order to compile a simple chart in the invention stated in cited reference 1, one skilled in the art can connect nearly related patent documents at his/her discretion by a line segment by referring to the technique stated in cited reference 2.

#### Difference 2

Cited reference 3 states that data records are arranged along a time axis (see Fig. 3).

In order to compile a simple chart in the invention stated in cited reference 1, one skilled in the art can lay out patent documents along a time

axis at his/her discretion by adopting the display format of arrangement along a time axis stated in cited reference 3.

Accordingly, the invention according to claim 1 will readily occur to one skilled in the art in view of cited references 1-3.

The same applies to claims 2-5.

#### Cited References

1. JP 2003-157262 A
2. Yoshinori Katayama, "Semantic Groupware WorkWare++ and Application to KnowWho Retrieval", IPSJ SIG Technical Reports, Vol. 2003, No. 51, Information Processing Society of Japan.
3. Published Japanese translations of PCT international publication for patent application No. 2002-532788

## 拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願 2003-353928
起案日	平成19年 7月25日
特許庁審査官	紀田 馨 3042 5M00
特許出願人代理人	服部 毅巖 様
適用条文	第29条柱書、第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出してください。

## 理 由

## 【理由1】

この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

## 記

- ・請求項 4
- ・備考

請求項4に記載された発明は、

- 1 「人間がコンピュータを操作して関係図を作成する方法」という、コンピュータという計算道具を操作する方法と解釈することができ、また
- 2 「コンピュータが自動的に関係図を作成する方法」という、コンピュータソフトウェアによる情報処理方法とも解釈することができる。

したがって、本来別々の請求項に記載すべき「コンピュータという計算道具を操作する方法」及び「コンピュータソフトウェアによる情報処理方法」という異なる概念を一の請求項に含んでいるために、請求項に係る発明を明確に把握することができない。

よって、請求項4に係る発明は明確でない。

## 【理由2】

この出願の下記の請求項に係る発明は、下記の点で特許法第29条第1項柱書に規定する要件を満たしていないので、特許を受けることができない。

## 記

- ・請求項 4
- ・備考

上記方法がコンピュータという計算道具を操作する方法であるならば、上記方法は人為的取り決めそのものにすぎず、「自然法則を利用した技術的思想の創作」ではない。

また、上記方法がコンピュータソフトウェアによる情報処理方法であるならば、上記方法は、対象の物理的性質又は技術的性質に基づく情報処理を具体的に行うものとは認められず、また、ソフトウェアによる情報処理がハードウェア資源を用いて具体的に実現するものとも認められず、当該発明は「自然法則を利用した技術的思想の創作」ではない。

### 【理由3】

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記 of 刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項 1 乃至 5
- ・引用文献等 1 乃至 3
- ・備考

引用文献1にはある特許文献に含まれる単語や優先日や出願日などを抽出して類似性の高い特許文献を検索すること、類似性が高いと判断された特許文献のうち参照被参照関係にある文書を線分で結んで図表をつくることが記載されている（【0004】、【0046】、【0047】段落、図11を参照）。

引用文献1に記載の発明と請求項1に係る発明とを対比すると、

引用文献1に記載の「特許文献」が請求項1に係る発明の「オブジェクト」に相当し、

引用文献1に記載の「優先日」が請求項1に係る発明の「時間情報を含む特徴素」に相当し、

引用文献1に記載の「図表」が請求項1に係る発明の「関係図」に相当し、

請求項1に係る発明では「関連度に応じて」関係線を生成するのに対し、引用文献1に記載の発明では参照被参照関係にある文書を線分で結ぶ点（以下、相違点1という）で相違し、

請求項1に係る発明ではオブジェクトを「時間軸上」に配置するのに対し、引用文献1にはその旨記載がない点（以下、相違点2という）で相違する。

上記相違点1、2について検討する。

-相違点1について

引用文献2には関連の高いノード間を線で結ぶことで技術マップを作成する旨記載されている（図6を参照）。

引用文献1に記載の発明において、わかりやすい図表を作成するために引用文献2に記載の技術を最小し、関連の高い特許文献を線分で結ぶものとすることは当業者が適宜なしえる。

-相違点2について

引用文献3にはデータレコードを時間軸上にならべる旨記載されている（図3を参照）。

引用文献1に記載の発明において、わかりやすい図表を作成するために引用文献3に記載の時間軸上に並べる表示形式を採用し、特許分圏を時間軸上に並べるものとすることは適宜なし得る。

ゆえに引用文献1乃至3の記載から請求項1に係る発明とすることは当業者が容易に想到し得たものにすぎない。

請求項2乃至5についても同様である。

引用文献等一覧

1. 特開2003-157262号公報
2. 片山 佳則 Yoshinori Katayama, セマンティックグループウェアWork Ware++とKnowWho検索への応用 Semantic Groupware WorkWare++ and Application to KnowWho Retrieval, 情報処理学会研究報告 Vol. 2003 No. 51 IPSJ SIG Technical Reports, 日本, 社団法人情報処理学会 Information Processing Society of Japan, 第2003巻
3. 特表2002-532788号公報

---

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野      I P C第7版   G 0 6 F 1 7 / 3 0  
                            D B名   J I C S Tファイル
- ・先行技術文献

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡ください。

特許審査第四部 電子商取引 審査官 紀田 馨  
TEL. 03(3581)1101 内線 3598  
FAX. 03(3501)0737